

2007年3月6日

投資家の皆様へ

日興アセットマネジメント株式会社
インベストメントストラテジーグループ
ジョン・ヴェイル

足元の世界的な相場軟調について

世界の投資家は、ほんの1週間前にはほとんどリスクが見当たらないと感じていたようですが、ここにきて、やはりある程度のリスクが存在することに気がつきつつあるようです。また、米国の住宅産業とそれに関連する金融セクターの指標に悪化が見られているのは事実です。

しかし、だからといって、市場がパニックに陥らなければならない訳ではありません。なぜなら、世界経済の基調をなす様々な統計を見渡すと、芳しくないものよりも良好なものの方が多いからです。例えば、米国の場合、雇用増加とかなりの賃金上昇が統計に表われています。また、ほとんどの家計が持ち家で大きな値上がり益をあげていることから、短期金利の上昇による悪影響は目立ったものとなっていません。欧州でも、不動産価格が引き続き堅調なほか、実にしっかりした景気拡大が続いています。また、日本でも、経済および企業セクターの改善が続いています。さらに、これは世界的に言えることですが、企業はキャッシュを豊富に保有しており、われわれの調査・分析から判断する限り、支出抑制の兆しはほとんど見られません。そして、在庫が非常に低水準であるとともに、受注残が高水準となっている状況からは、企業の生産に増加余地があることが示唆されています。

われわれは、世界の主要株式市場のバリュエーションに割高感は無く、やや減速するとは言え、2007年も企業業績の伸びが続くとみています。また、(米国の双子の赤字のような)世界的な不均衡が残っているとは言うものの、米ドルが大きな下落傾向にあるようには見えません。確かに円は上昇していますが、それは主要通貨全体に対してのもので、この背景には、投機家の動きがあります。円安を見込んでいた投機家はこれまで、低金利で借り入れた円を他通貨のリスク資産に投じ、短期での利益追求を行ってきました。しかし、そうした投機家のポジションがここにきて解消されているため、円の上昇につながりました。ただし、こうした投機とは異なり、(家計資産に代表される)円ベースの投資家が、長期投資の観点から海外資産に資金を投じる姿勢を強めているという事実を見逃してはなりません。さらに、足元の市場の動揺は、各国中央銀行当局のより温和な金融政策につながる可能性があり、これが現実のものとなれば、比較的短期のうちに投資家の懸念が和らぐものと考えられます。

つまり、世界の市場は従来よりも高いリスクを織り込みつつあり、それが行き過ぎる可能性は否定できないものの、経済および企業の状況が世界全体として引き続きしっかりしていることから、われわれは世界的な弱気相場入りの可能性は低いと考えています。

以上

John F. Vail

当資料は、日興アセットマネジメントが経済、市況他、投資環境に関する情報をお伝えすること等を目的として作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料でも特定ファンドの勧誘資料でもありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り当資料作成日現在の弊社の見解を示すものです。当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。